

国際編

【1】 プラスチック規制——プラ汚染に関する国際文書、予定した会合すべて終了するも...[全9ページ サンプルのためリンクは消してあります。](#)

法律/政策の名称	決議 5/14「プラスチック汚染を終わらせる：法的拘束力のある国際文書（条約）に向けて」
現地語名称	UNEA Resolution 5/14 entitled “End plastic pollution: Towards an international legally binding instrument”
公布/施行日等	2022年2月28日から3月2日 (第5回国連環境総会の2部 (UNEP POPs Convention))
カバー期間	2023年12月~2024年11月

このテーマの基礎知識
を簡潔に説明

バックグラウンド情報

2022年2月28日から3月2日まで行われた第5回国連環境総会の2部(UNE-5.2)で、プラスチック汚染を終わらせること、そして2024年中に強制力のある国際協定の案を策定する決議が採択された。[サンプルのため以下省略](#)

■2023年11月までに行われた政府間交渉委員会

	内容
第1回政府間交渉委員会 (INC-1)	期間：2022年11月28日から12月2日 サンプルのため説明省略
第2回 (INC-1)	サンプルのため説明省略
第3回 (INC-3)	期間：2023年11月13日から11月19日 サンプルのため説明省略

最近の主な動向

■第4回政府間交渉委員会

期間：2024年4月23日から4月29日

場所：カナダのオタワ

当該会合には170の加盟国と、非政府組織、政府間組織、国連機関を含む480以上のオブザーバー組織を代表する2,500人以上の代表団が参加した。[サンプルのため説明省略](#)という点についての決定はINC-5に持ち越された。

INC-4の結果

EnviX 海外環境法規制 トレンドレポート

INC-4 では、第 3 回政府間交渉委員会 (INC-3) を受けて 2023 年 12 月に作成されたゼロ・ドラフトの改定版 (以下、改訂草案) を基に分野毎に議論が行われた。2 つのコンタクトグループが設置され、さらに複数のグループに分かれた。2 つのコンタクトグループで議論された内容を下記に簡潔に示す。

- **コンタクトグループ 1** サンプルのため説明省略
- **コンタクトグループ 2** サンプルのため説明省略

INC-4 では、以下に関して各国により議論され、以下の結果となった。

サンプルのため説明省略

野心的な国際文書の擁護者とその進展を阻む者

一次プラスチックポリマーに関する議論がなされなかったこともあり、**サンプルのため説明省略...**以下の 3 つを宣言する、「釜山への架け橋」宣言に署名した。

- (1) 一次プラスチックポリマーの持続可能な生産レベルを達成...**サンプルのため説明省略**
- (2)
- (3)

■第 5 回政府間交渉委員会

期間：2024 年 11 月 25 日から 12 月 1 日

場所：韓国の釜山

2024 年内に国際文書を策定することが当初の目標であったが、INC-5 の最終日には議長より条文案が提示されたが合意に至らず、後日再開会合 (INC-5.2) を開催し交渉を継続することとなった。大半の国は、**...サンプルのため説明省略...**を支持する意向を示しているという。しかし、プラスチック生産量の制限、資金、国際文書の適切な範囲に関する意見の相違が交渉の進展を妨げた。

国際環境法センター (CIEL) の報告によると、**サンプルのため説明省略...**産業界と、悪影響を受けている人々の溝は深まるばかりではないだろうか。

各国の意見を抜粋する。

- (1) 欧州連合 (EU)、日本、韓国、英国、**...サンプルのため説明省略**
.....
- (6) メキシコは、**...サンプルのため説明省略**

今後の展開とスケジュール

EnviX 海外環境法規制 トレンドレポート

■プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書

サンプルのため説明省略...INC-5.2 の日程に関して、2025 年前半を希望するものや、合意に達するまでには多くの作業が必要であるとして 2025 年 7 月または 8 月を希望する意見もあったため、2025 年夏頃に開催されると予想される。

EnviX 展望と見解

同テーマを取り上げたトレンドレポート 31 号の「展望と見解」で、筆者は「国際文書の内容を 2024 年末までに決定することは困難ではないかと考える。」と述べたが、その通りの結果となった。2024 年末の結果としては、誰の目からみても明らかだったかと思う。

多くの国が、...サンプルのため説明省略...

2025 年には再開会合が開催され、さらなる議論が重ねられることになる。このまま会合を進めて、増え続けるロビイストたちが納得できるような形になるのか、そうなったとして、過重な負担を強いられている国々は納得するのか。世界的に様々な問題を引き起こすプラスチックに対する規制が一つになるには、まだまだ時間がかかるだろう。終着点ははっきりと見えていないように感じるが、いつ急激に議論がすすむかもわからないので、今後も注視していく必要があるだろう。

その他関連動向

■OECD、プラスチック汚染をなくすための政策シナリオを公表

経済協力開発機構（OECD）は、2024 年 10 月 2 日、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書策定のための 2024 年 11 月の最終協議を前に、プラスチックに関する様々な行動分野に焦点を当てた代替政策シナリオをモデル化した報告書「[2040 年までにプラスチック汚染をなくすための政策シナリオ（Policy Scenarios for Eliminating Plastic Pollution by 2040）](#)」を公表した。...サンプルのため説明省略

1. プラスチックの流れとその環境影響は急速に拡大し続け従来のビジネスは持続不可能

(1) 世界のプラスチック生産量は、...サンプルのため説明省略

...

2. 部分的な対策ではプラスチック汚染を抑制不可

...サンプルのため説明省略

...

7. 環境への漏出以外のプラスチック汚染についても、さらなる介入が必要

【2024.12.09 SO】

EnviX 海外環境法規制 *トレンド*レポート